<u>三重ものづくり改善インストラクター養成塾</u> <u>令和6年度</u>

~受講者募集のご案内~

募集期間

令和6年6月10日(月)から令和6年7月22日(月) (申し込み締め切り)

公益財団法人 三重県産業支援センター 北勢支所

三重ものづくり改善インストラクター養成塾

担当:長谷川、小池、安達

〒510-0805 三重県四日市市東阿倉川788

TEL059-327-5830 FAX059-327-5831

URL:https://www.miesc.or.jp Email: kaizen@miesc.or.jp

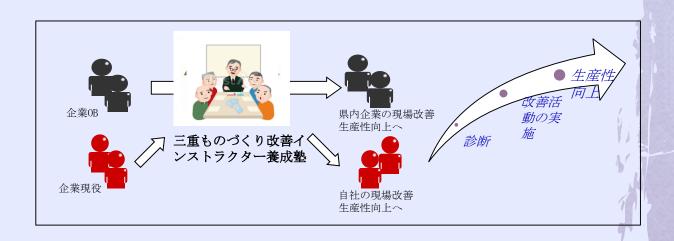
ものづくり改善インストラクター養成塾について

公益財団法人 三重県産業支援センターでは、昨年度に引き続き、ものづくり 改善インストラクターを養成する三重ものづくり改善インストラクター養成塾 を開校します。

今、ものづくり企業においては、企業での生産革新を行い、企業間競争に打ち勝てる強い現場づくりとものづくり現場を改善し続けられる企業体質を改変する体制つくりが求められています。その企業体質のレベルアップを図る為、スキルの高い人材が必須であることから、本養成塾では、生産革新(生産の見える化やICTの推進・納期短縮と在庫削減・管理会計とコスト削減・更には品質向上、等)のノウハウや経営面でのDX化推進の基礎を身に付けていただき、藤本教授(元東京大学)理論を基軸にした「ものづくり改善ネットワーク」との連携のもと、経験豊富な講師陣の講義に加え、ものづくり改善ネットワーク」との連携のもな手法を学んでいただくことで、県内中小企業・小規模企業での生産革新や改善支援活動の担い手となる「ものづくり改善インストラクター」を養成します。

受講者として企業から派遣された方々は、自社内でのものづくり改善活動での 指導者的な役割と改善活動のインストラクター役を担って頂く人材です。また、 企業を退職されたOBの方々は県内企業の派遣要請により、企業の生産革新指導 者になっていただきます。

本養成塾では、ものづくりの重要性から紐解き、生産の流れや製造工程の流れで無駄のない「ものづくりの良い流れ」の理論と手法を身に付けることができます。また、本養成塾は座学だけでなく、実際に製造現場において課題を抱えている企業に対し、実践的な改善活動を行うものとなっており、実際の製造現場等において必要な知識を体験的に学ぶことができます。



三重ものづくり改善インストラクター養成塾開催要領

開催内容

【受講期間】 令和6年9月6日(金)~令和6年11月30日(土) 13日間(座学4日間、企業実習&報告会9日間)

【場所】 座学:四日市市三浜文化会館(四日市市海山道町1丁目1532-1)予定 企業実習先:県内企業2社を予定。確定次第別途ご連絡いたします。

【募集定員】 10名程度 ※申請書類受理により受講者を決定し、書面で結果を通知させていただきます。

【募集対象】 下記のいずれかに該当される方

- ①県内の製造業等に勤務し、製造現場の管理や改善に携わっている (または携わる予定のある)ものづくり企業のリーダークラスの方
- ②製造現場の経験豊富な退職者(OB)の方も応募可能です。
- ③支援機関の職員や社員等の方々も同様に応募可能です。

【受講料】①(企業現役の方) 24万円(税込)

- ※当講座は受講料への補助金(厚労省の人材開発支援助成金)が適用となる場合があります。詳細はお問い合わせください。
- ② 企業に所属していない方々には受講料で特例処置を配慮いたしますので、ご相談願います。

【主催】 公益財団法人 三重県産業支援センター 北勢支所 三重ものづくり改善インストラクター養成塾

	実	施日	9:30~12:00		13:00~17:00		開催場所	
	9月	6日 (金)	(開 校 式) プレゼ デーション 序論	としていっていい	競争力と企業 パフォーマンス	概念	四日市	
座学		7日 (土)	生産管 (納期・工程		ものづくり1 企業の[とloT活	DX推進		
		20日 (金)	原価低減(VA/VE とコストダウン	ニー(コフトンル	標準作業と標 準時間の設定 について		三浜文化会館	
		21日 (土)	ものづくりの 管理会計	良い流れ」講義	生産革新の推 の説明&現場 方 (事例紹	改善の進め		
	10月	4日 (金)	現場実習先での 事業紹介と案「 & トップインタビュー の実施	企業現場での 工場見学と 兆候としての 課題摘出	グループ討議 (企業方針の 確認)	グループ討 議(兆候・ 課題の纏 め)	実習先企業	
		18日 (金)	現場実習(トップインタビュー確認、兆候確認) (対象現場での対象製品での工程表策定と 「ものの流れ&情報の流れ」調査)			実習先 企業		
現場実習		19日 (土)	グループ討議と纏め(工程VSMの素案策定) 次回の調査方針			四日市 三浜文化 会館		
	11月	1日 (金)	現場実習(VSMの情報再確認・ものの動線調査・ 動線距離測定)			実習先 企業		
		2日 (土)	グループ討議と纏め(VSMでの改善策討議と資料作成) (動線の課題分析と改善策討議と資料作成)			ヘルスプ ラザ		
		15日 (金)	現場実習(作業者選択と動作分析用撮影と 分解分析と課題抽出) (全体資料の現場確認)				実習先企業	
		16日	全体資料の策定と改善案の提案		最終改善策の提案書 の策定		四日市 三浜文化 会館	
		29日 (金)	発表資料の最	<u></u> 終チェック	改善策の提 (現場実習		実習先企 業	
11月30日(土)			企業発表内容の 午後の発表会資	の評価と反省 資料の加筆修正	全体発表会	閉校式/ 修了証書 授与式	四日市 三浜文化 会館	

第10期(R6年度)カリキュラム体系(詳細)

			神座
1	ものづくりの基礎概念	改善インストラクターとして、ものづくりの基本とそのプロセ ス全体を理解する。	1日目
2	競争力と企業パフォーマンス	企業競争の中での組織力や収益性に対する考え方をまとめ、企 業のパフォーマンスの図り方も理解する。	1日目
3	製品開発プロセス	製品開発プロセス(開発工程)の中で、開発組織や開発陣容の在り方を理解し、開発としての企業の総合力を理解する。	資料配布
4	開発期間と製品開発の概論	製品開発プロセスの中で、開発期間、と開発商品への思考や生産性とDR等での企業の開発力を理解する。	資料配布
5	生産管理	納期管理は生産プロセスの中での生産工数や生産リードタイム であり、工程管理でもある。又、在庫となって現れることを理 解し、在庫管理の在り方を理解する。	2日目
	(納期・工程・在庫管理)	IoTの現状と技術動向とビジネスモデルを説明し、生産管理の IoT利活用事例も紹介する。	2日目
6	フレキシビリティとDX化の基礎 概念	企業運営や生産プロセスの中での柔軟な経営体制と運営について理解し、IT活用のシステムについても理解する。(DX化の概要)	1日目
	設備管理	設備の投資効果や自動化への評価を理解し、機器保全管理を理解し、機器管理システムとしてIoT利活用への理解を深める。	資料配布
7	購買管理	購買管理の基礎と実践	資料配布
	人事•労務管理	人事管理や労務管理の基礎と実践	資料配布
8	5S活動・ムダ取り・3定による 課題発見手法(見える化と対応 策)	改善・改革は課題発見から始まり、その改善手法や課題解決法を活用する事になる。又、課題の解決の思考はステップを取りながら進めることを理解する。。	資料配布
9	ICT利活用と企業のDX化推進 /IoT事例の紹介	IoTの導入の為の技術と機器の説明と事例紹介を行い、クラウドによる企業内のDX化推進への情報を提供することで、企業内のICT運営への全体像を理解する。	2日目
10	原価低減(VA/VE)とコストダウン	図面や現物から、原価計算基準等を駆使して、VA・VEの手法で、部品の原価低減によるコスト改善を理解する。	3日目
11	IEの基本(コストと生産性)	現場改善や現場のレイアウト改善など基本であるIEに関しての 手法を理解する。又、作業改善への手法についても理解する。	3日目
12	標準作業と標準時間の設定と合理化演習	ものづくり現場の基礎である標準作業と標準時間について、そ の測定と設定方法を理解する。又、トヨタ式標準時間の考え方 も情報提供する。	3日目
		ピンボードによる合理化推進の為の試行演習となる。	3日目
13	品質の管理と改善事例	ものづくり改善における品質管理の考え方、品質管理へのアプローチと品質管理のデータ化を理解する。	資料配布
14	QCDを統括しての指導	生産活動に踏み込んで実践指導する為、全体の流れをつかみQ CDでの指導手順(バランス管理)を体得する。	資料配布
15	ものづくりの管理会計	企業の損益計算などの経営指標からものづくりにおける原価計 算や製品製造損益などを理解する。	4⊟目
16	現場改善の進め方(事例紹介)と 「よい設計・良い流れ」講義	生産革新を推進した現場での改善へのステップ(兆候〜改善) について紹介し、生産革新への理解を深める。	4⊟目
17	生産革新の推進(正味作業時間と VSM)と実習要領の説明	生産革新は生産のロス削減と「よい流れ」化である事からその 重要ポイントである動線分析とVSM作成を学ぶ。	4⊟目
18	現場実習(課題発掘・活動テーマ 検討)・工場見学・グループ討議	トップインタビューによる企業課題の共有・工場見学と兆候	5日目
19	現場実習(課題発掘・活動テーマ 検討・改善・改良の検討)	企業課題の纏め、兆候の纏めを行い、確認する。 対象現場での工程表と「ものと情報の流れ」の調査	6⊟≣
20	グループ討議(VSM)	実習企業の現場で、改善方向を検討し、具体的な活動を行う為 の基礎データの収集から改善方策を見出す実習となる。	7日目
21	現場実習(課題発掘・改善・改良 の検討)	VSM素案でのものの流れと情報の流れを確認し、 動線調査の実施	8日目
22	グループ討議(VSM・動線)	VSMでの改善策討議と資料作成、動線の課題分析と改善策討議	9日目

【申込方法】

◆申込期限

令和6年7月22日(月) (締め切り)

◆申込方法

所定の受講申込書に必要事項を記入の上、下記住所へ郵送(FAX)又は 持参にてご提出ください。 企業OBの方、企業支援機関の方は別の申込書をお使いください。

<必要書類>

- 申込書(三重ものづくり改善インストラクター養成塾申込書企業現役用)
- ※ご記入頂きました内容については、公益財団法人 三重県産業支援センター の個人情報保護方針に基づき取り扱うと共に必要な範囲でのみ利用いたします。
- ※ご提出いただいた申込書、会社案内は、採用の可否にかかわらず返却 いたしませんのでご了承ください。

【お申込み先・お問い合わせ先】

〒510-0805 三重県四日市市東阿倉川788 (公財)三重県産業支援センター 北勢支所 三重ものづくり改善インストラクター養成塾 事務局

担当:長谷川、小池、安達

TEL: 059-327-5830 FAX: 059-327-5831

URL: https://www.miesc.or.jp E-mail: kaizen@miesc.or.jp

講師紹介

講師	プロフィール
長谷川 俊男	元:富士電機(株)三重工場長。CC事業本部常務取締役、富士電機退任後、 (公財)三重県産業支援センターの高度部材イノベーションセンター次長、 戦略産業雇用創造プロジェクト班・プロジェクトリーダー等を務める 前:三重県産業支援センター 北勢支所 中小企業支援コーディネーター 2014年度東京大学藤本教室ものづくりインストラクター修了生
森 一成	元:松下電工(株)。日本で製造管理者、海外で工場経営者を担当した後、 生産技術研究所ものづくり企画室にて生産革新をパナソニック全社へ展開 (公財)三重県産業支援センター戦略産業雇用創造プロジェクトコーディ ネーターを務める。 現在:(公財)三重県産業支援センター 雇用プロジェクト推進課 地域活性化雇用創造プロジェクト コーディネーター
佐藤 善厚	元: (株)東芝で生産技術を担当。関係会社の監査役を務めた後、 生産合理化におけるトヨタ現場改善手法やシックスシグマのインストラク ター等を経験する。退職後、工業研究所や三重県産業支援センターへ 前: (公財)三重県産業支援センター戦略産業雇用創造プロジェクトでの 推進リーダー
冨永博	元:富士電機(株)設計開発 技術部長 富士電機ホールディング副理事(海外駐在) 三好化成)三好化成材料蘇州 副総経理 (公財)三重県産業支援センター 戦略産業雇用創造プロジェクトにて コーディネーターを務める 現在:三重県工業研究所 金属研究室 試験研究サポーター
長野 洋史	元:三鈴工機(株) 常務取締役 生産事業本部長 (公財)三重県産業支援センター 戦略産業雇用創造プロジェクトその後、 (公財)三重県産業支援センター 地域活性化雇用創造プロジェクト活動、 又、三重ものづくりインストラクター養成塾事務局も務める 現在:三重県産業支援センター 雇用プロジェクト推進課 地域活性化雇用創造プロジェクト コーディネーター